

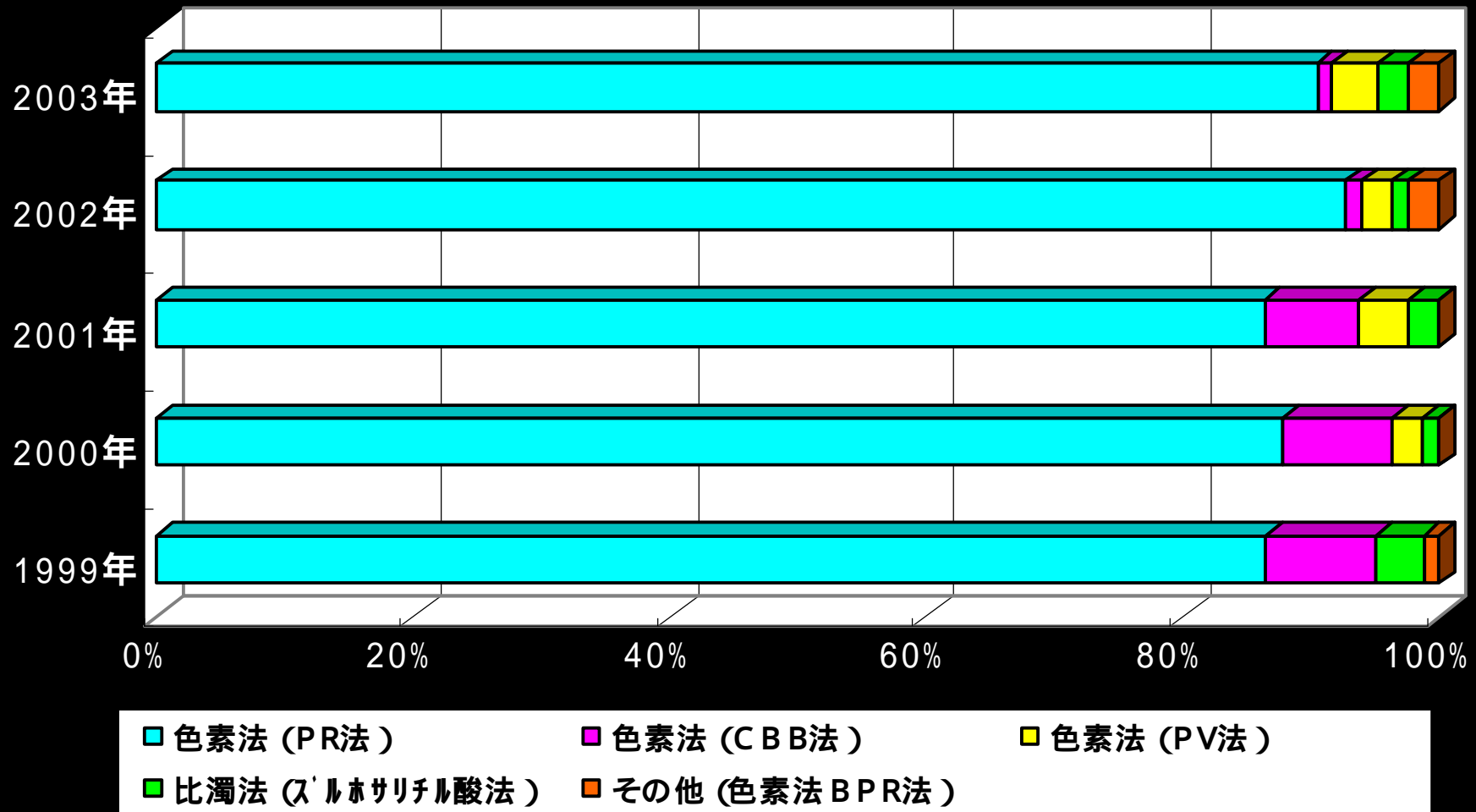
# 平成15年度 精度管理集計報告

## 一般検査

(定量・定性検査)

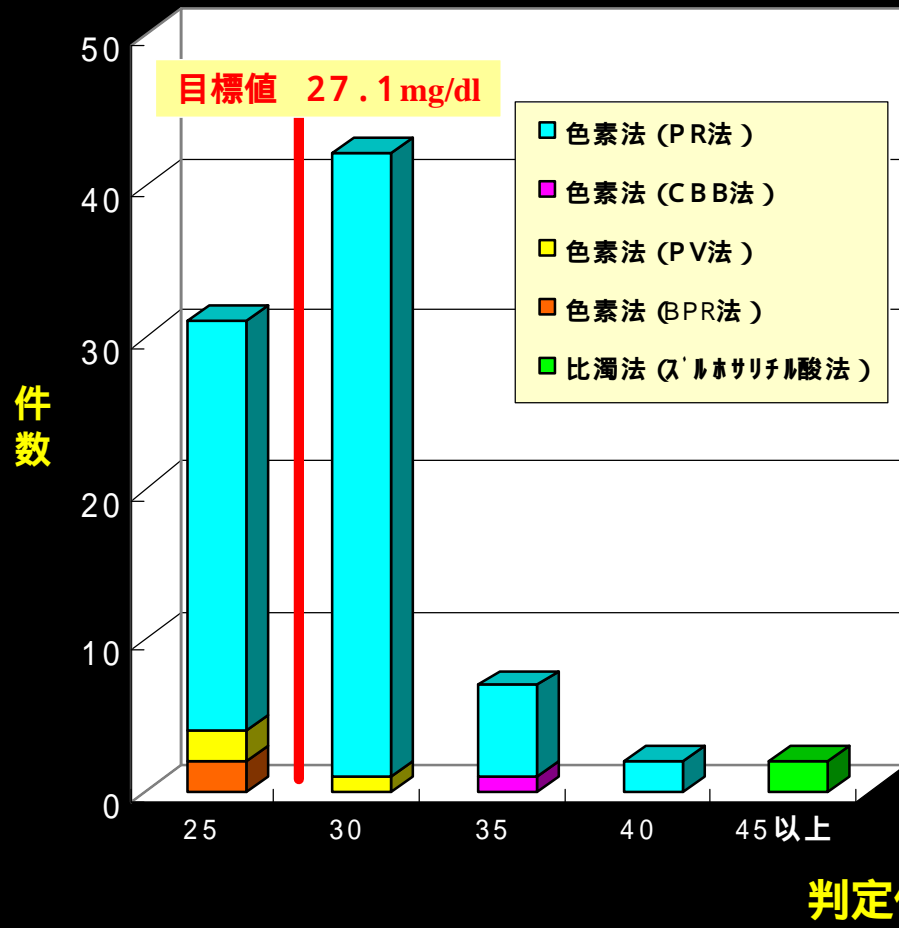
一般検査研究班

# 蛋白定量 方法別採用率の変遷

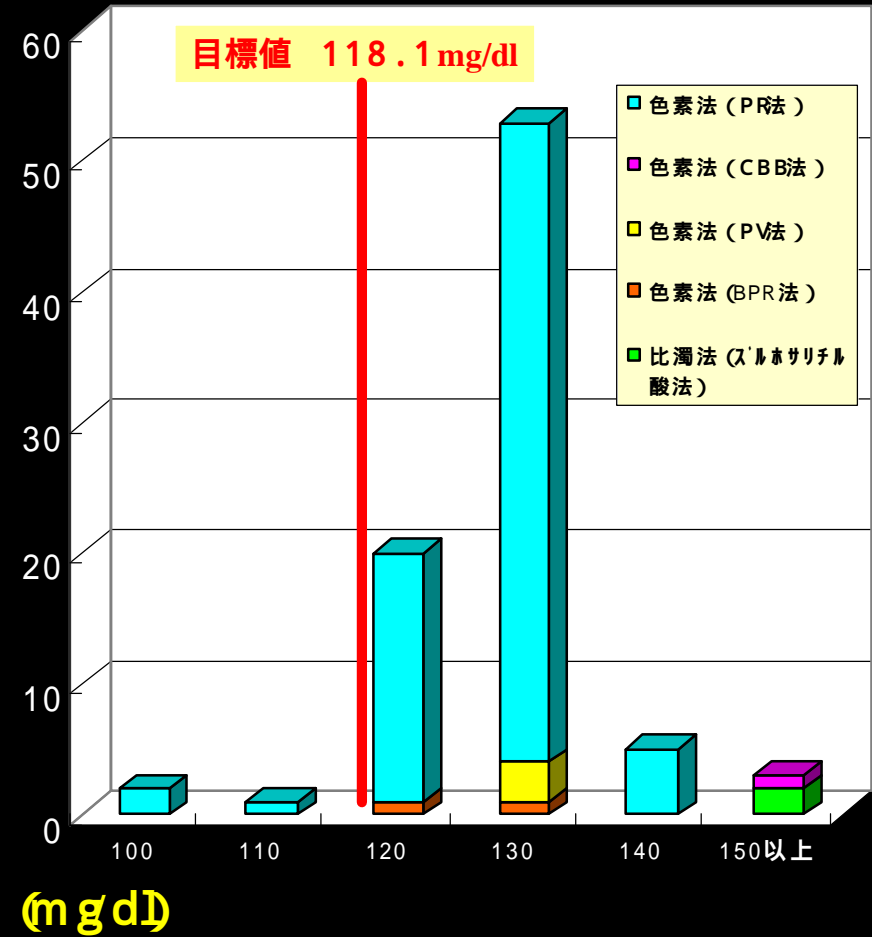


# 蛋白定量 方法別ヒストグラム

## 試料A



## 試料B



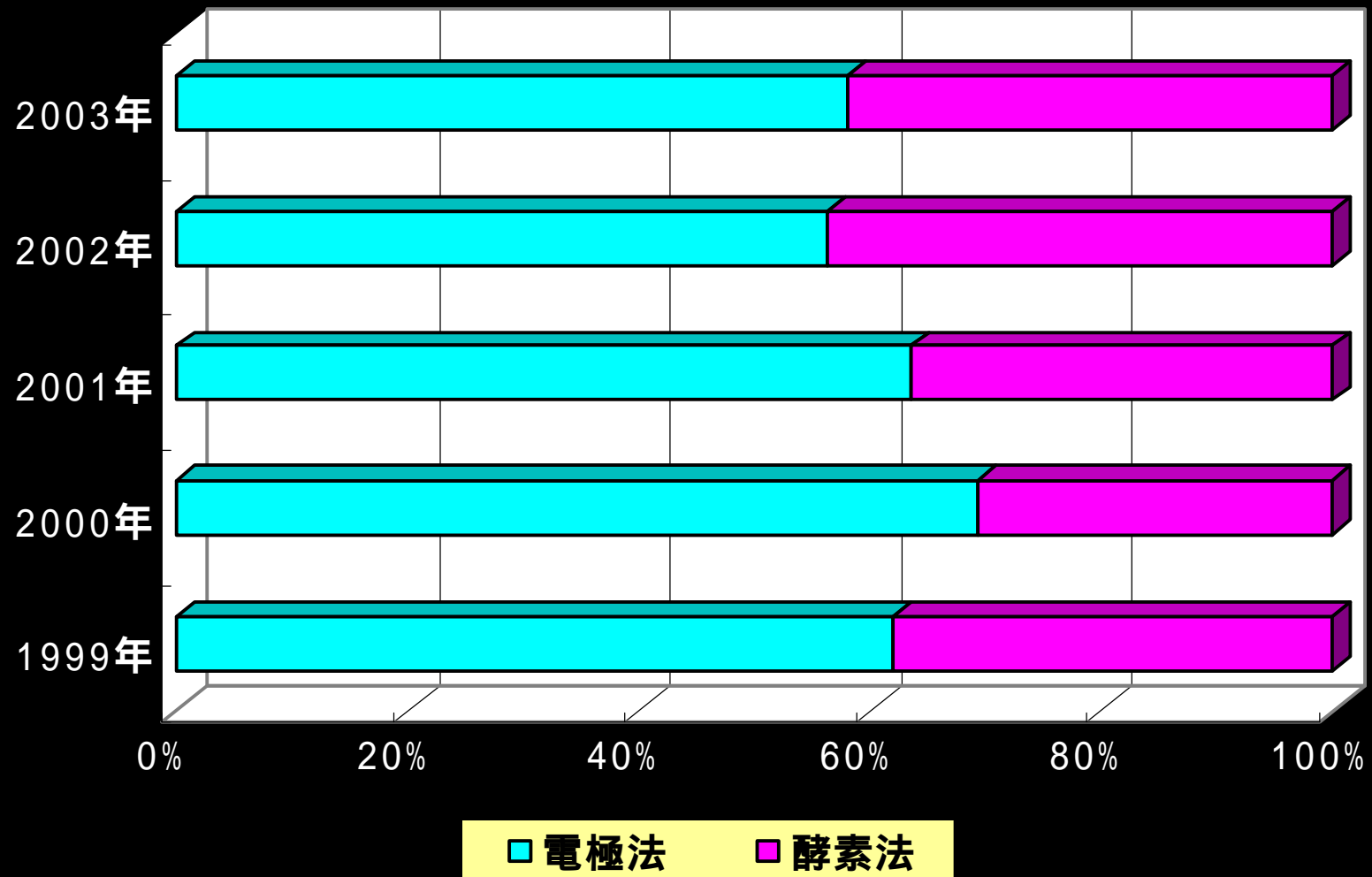
## 蛋白定量 正確さの評価

試料 A	測定方法	平均値 (mg/dL)	標準偏差	変動係数 (%)	正確度 (偏り) %
	色素法 (PR法)	28.9	3.05	10.5	6.6
	色素法 (CBB法)	35.0			29.2
	色素法 (PV法)	27.0	1.00	3.7	-0.4
	色素法 (BPR法)	26.0	1.41	5.4	5.4
	比濁法 (スルホサリチル酸法)	54.5	10.61	19.5	101.1
	HPLC法標定値	27.1			

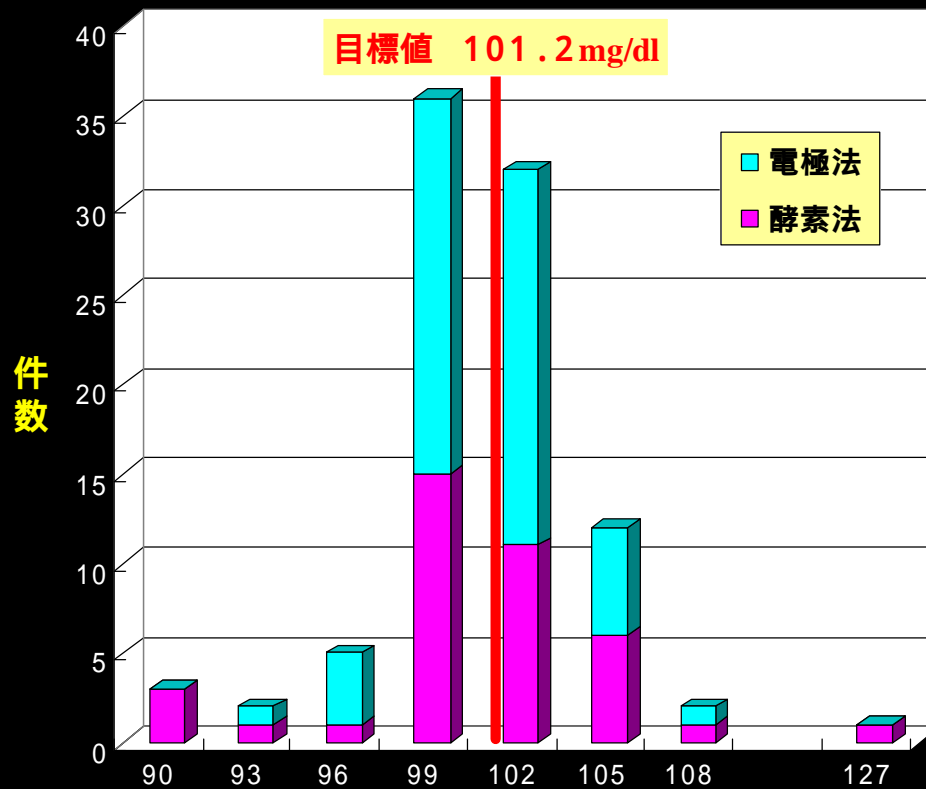
試料 B	測定方法	平均値 (mg/dL)	標準偏差	変動係数 (%)	正確度 (偏り) %
	色素法 (PR法)	127.0	6.85	5.4	7.5
	色素法 (CBB法)	150.0			27.0
	色素法 (PV法)	129.0	1.73	1.3	9.2
	色素法 (BPR法)	121.0	8.49	7.0	2.4
	比濁法 (スルホサリチル酸法)	274.0	49.50	18.1	132.0
	HPLC法標定値	118.1			

## 糖定量 方法別採用率の変遷

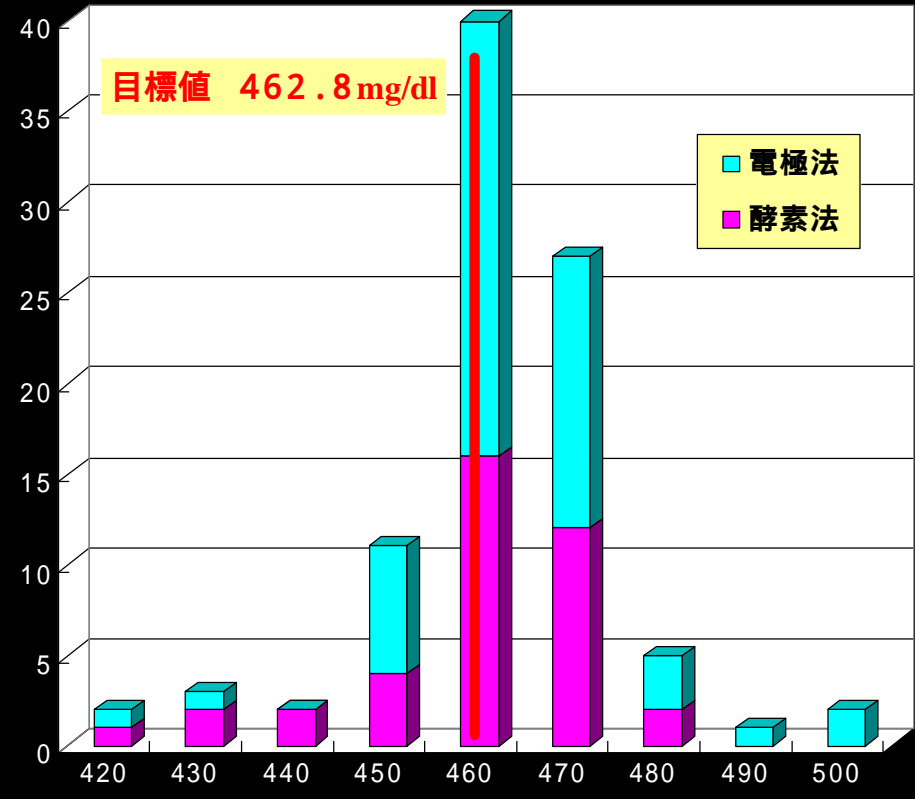


# 糖定量 方法別ヒストグラム

## 試料 A



## 試料 B



判定値 (mg/dl)

## 糖定量 正確さの評価

### 試料 A

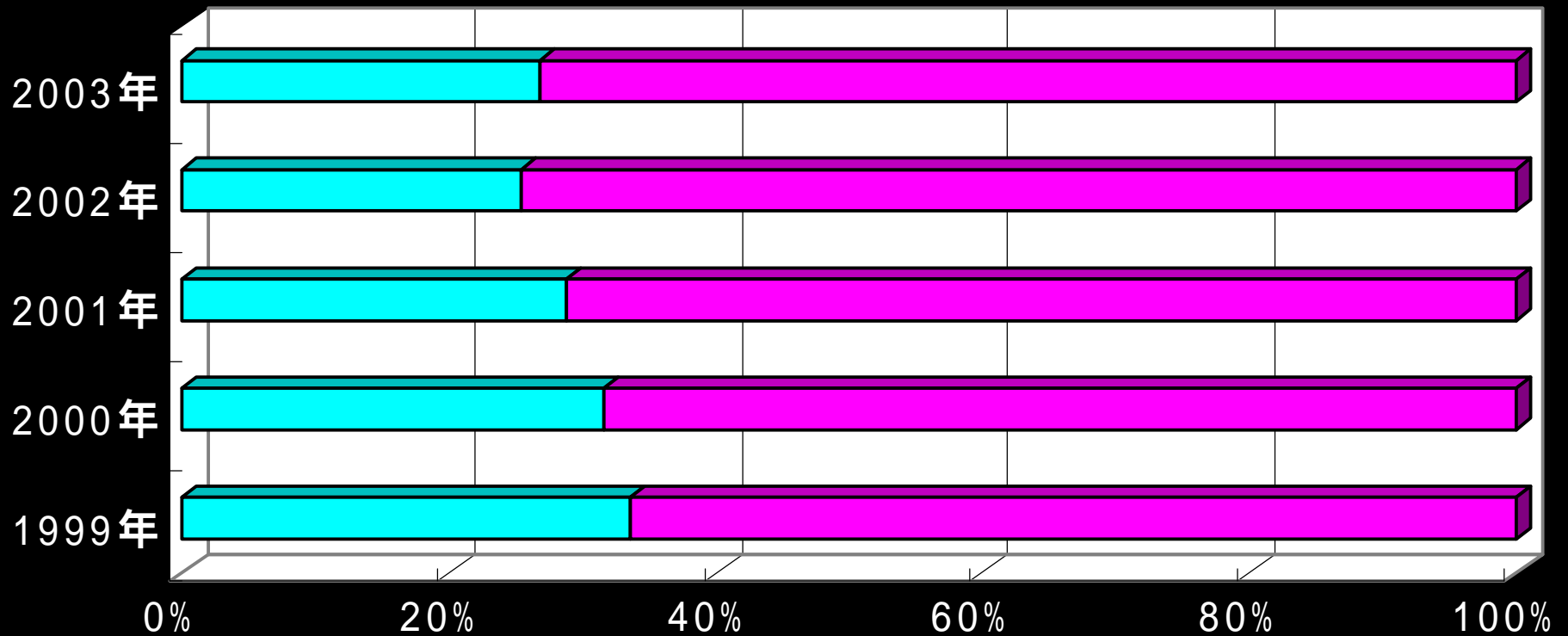
測定方法	平均値 (mg/dl)	標準偏差	変動係数 (%)	正確度 (偏り) %
電極法	100.8	2.92	2.9	-0.4
酵素法	100.8	5.86	5.8	-0.4
電極法標定値	101.2			

### 試料 B

測定方法	平均値 (mg/dl)	標準偏差	変動係数 (%)	正確度 (偏り) %
電極法	462.7	13.03	2.8	0.0
酵素法	459.1	13.36	2.9	-0.8
電極法標定値	462.8			

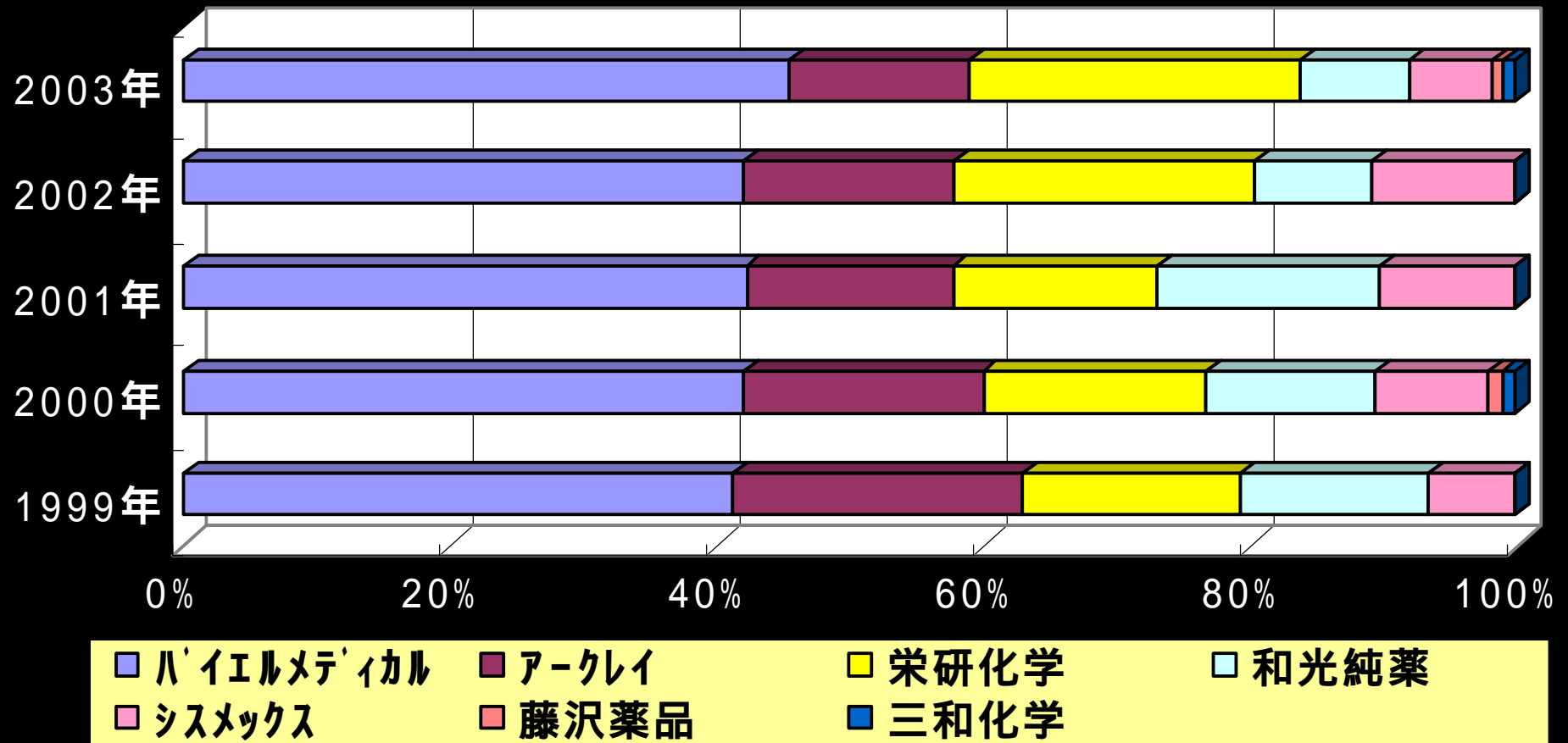
# 尿試験紙判定法の推移

■ 目視判定 ■ 機器判定



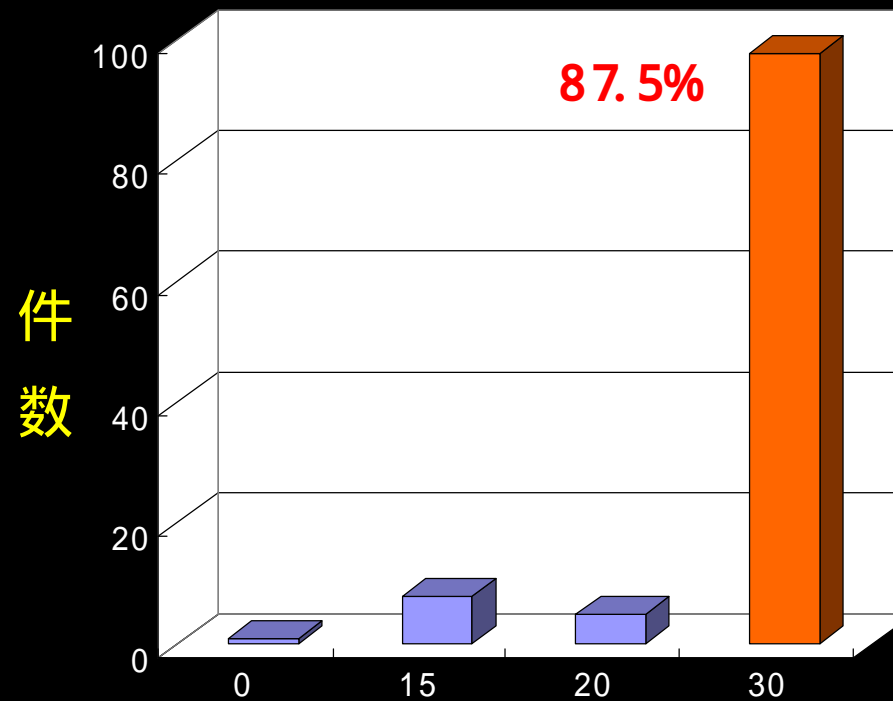


# 尿試験紙メーカー別採用率の推移

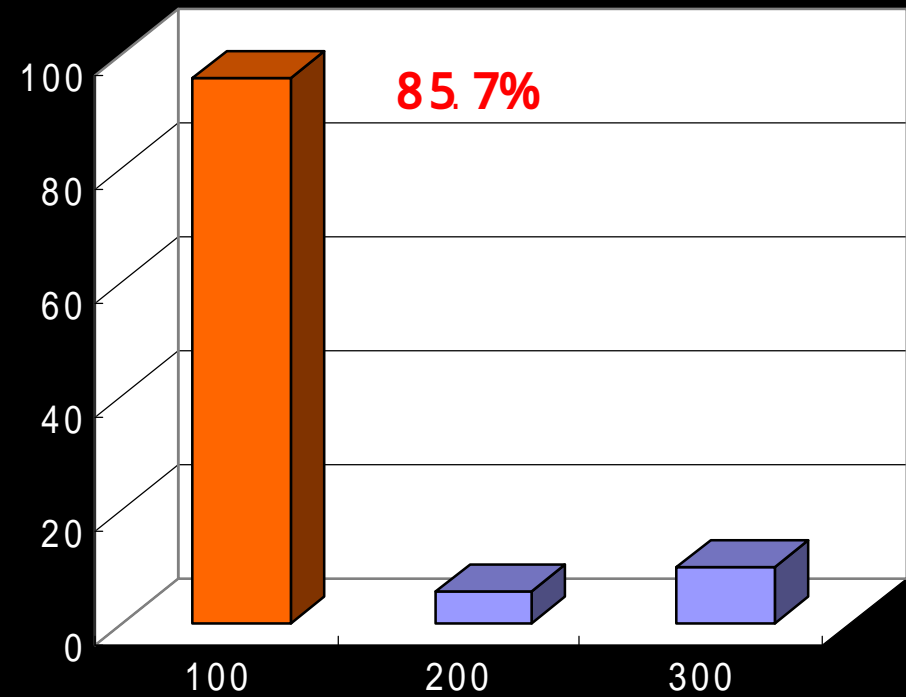


# 尿蛋白定性検査 回答集計 (112件)

試料 A



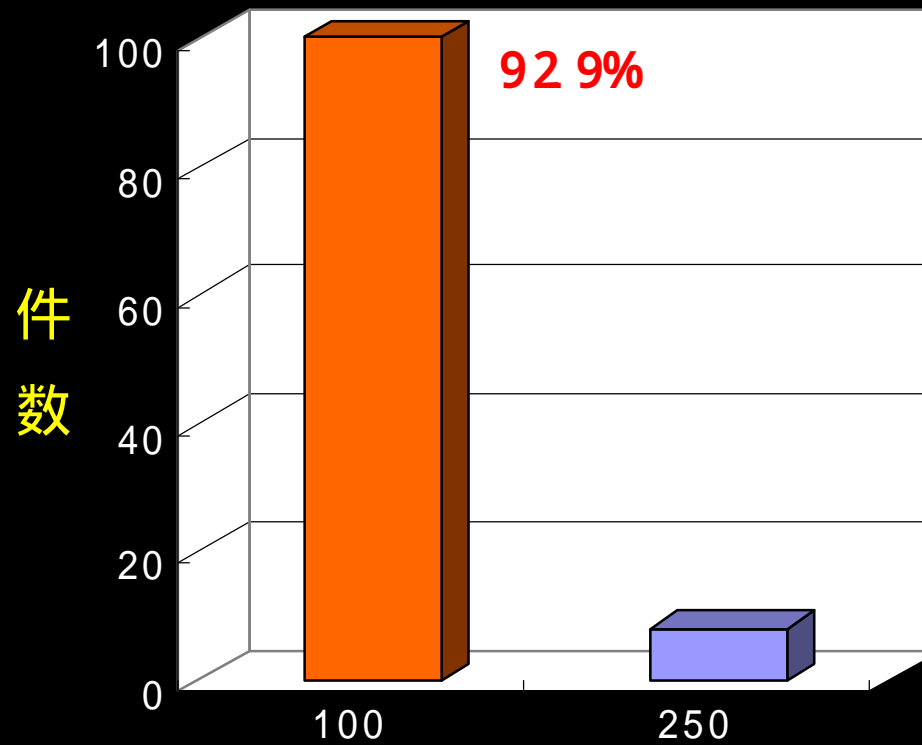
試料 B



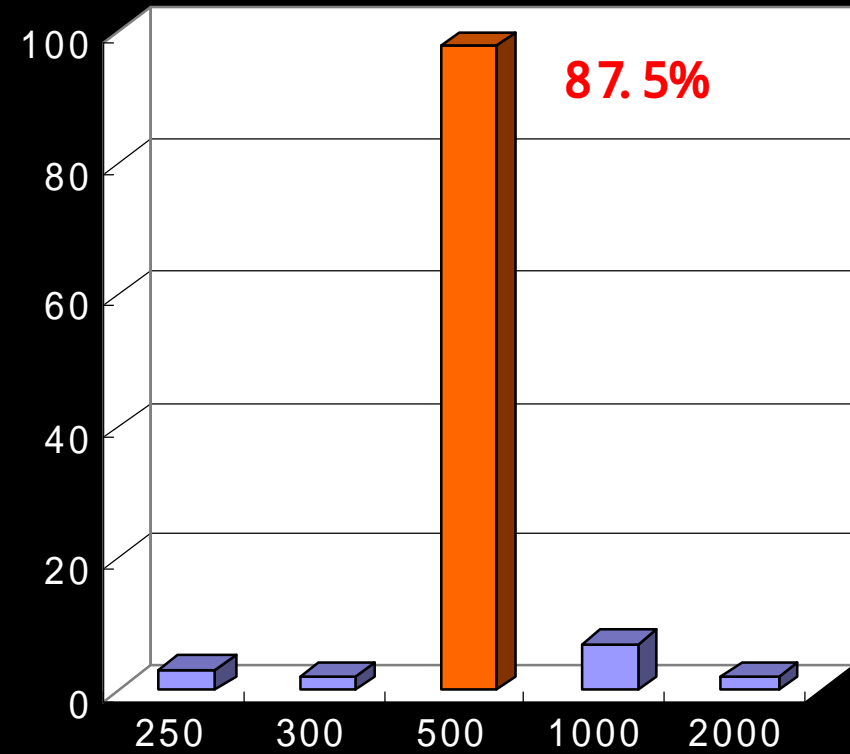
判定値 (mg/dl)

# 尿糖定性検査 回答集計 (112件)

## 試料 A



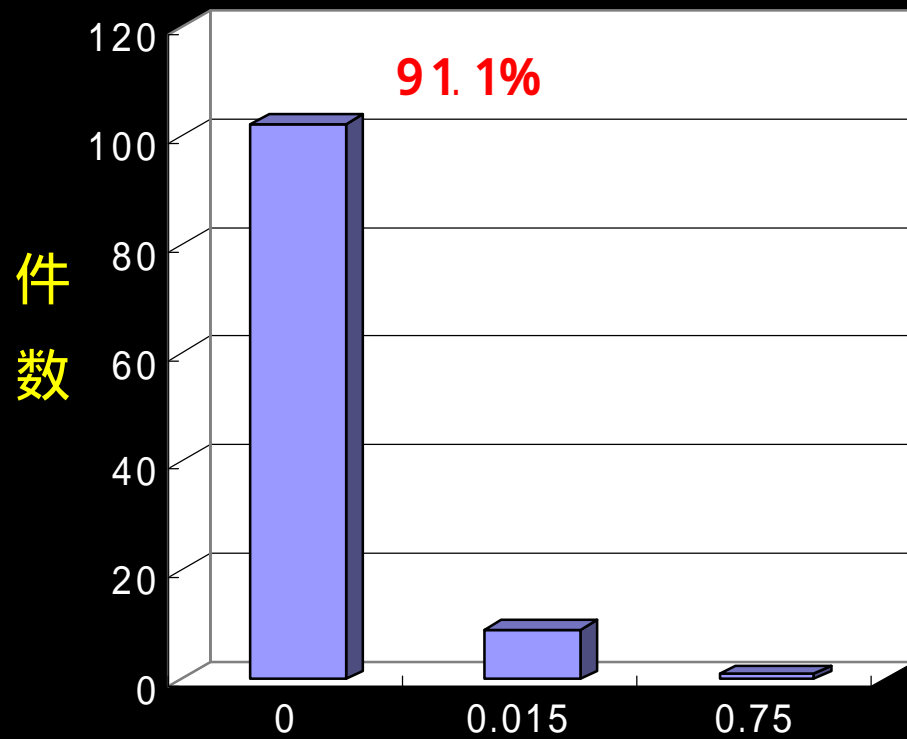
## 試料 B



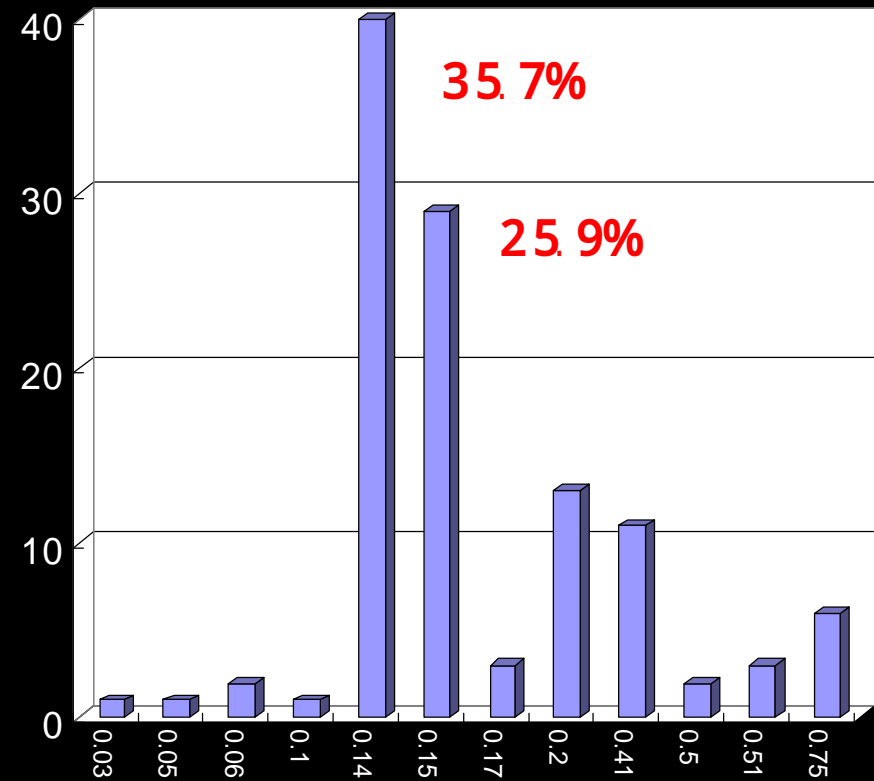
判定値 (mg/dL)

# 尿潜血定性検査 回答集計 (112件)

## 試料 A



## 試料 B



判定値 (mg/dl)

# 評価の設定

## 定性検査

A :目標値

B :目標値  $\pm$  1ランク以内

C :A , B以外

潜血は目標値の設定がないため ,今回は評価せず

## 定量検査

A :目標値  $\pm$  10%以内

B :目標値  $\pm$  20%以内

C :A , B以外

# 評 価

定性検査	蛋白 (112件)		糖 (112件)	
	試料 A	試料 B	試料 A	試料 B
A評価	99	102	104	103
B評価	12	10	8	9
C評価	1	0	0	0

定量検査	蛋白 (84件)		糖 (93件)	
	試料 A	試料 B	試料 A	試料 B
A評価	50	52	89	93
B評価	23	28	3	0
C評価	11	4	1	0

## まとめ (1)

1. 蛋白定量は、PR法を採用する施設が多く 昨年度と同様に90%以上であった。
2. PR法、PV法、BPR法は、目標値との乖離が少なく収束されていたが、CBB法と比濁法は大きく外れていた。
3. 方法別にHPLC標定値から「偏りパーセント」を正確性として評価すると、PR法、PV法、BPR法は正確性の高い方法であったが、比濁法は正確性に欠けていた。

## まとめ (2)

4. 糖定量は、電極法が58.1%、酵素法が41.9%の採用率であり、昨年度とほぼ同じ割合であった。
5. 電極法、酵素法ともに収束性が高く、目標値との乖離も認められなかった。
6. 方法別に検定した酵素電極法標定値から「偏りパーセント」を正確性として評価すると、2法ともほとんど認められず、正確性の高い方法であった。



## まとめ (3)

1. 定性検査は、昨年度よりも10施設増加し、112施設の参加があった。
2. 蛋白定性では、各試薬メーカー間で表示濃度がほぼ一致しているため、2試料ともに比較的収束した回答が得られた。
3. 糖定性は、高濃度試料で多少バラツキが認められた。
4. 潜血定性では、高濃度試料でバラツキが認められた。  
これは各試薬メーカー間で感度および表示濃度に互換性がないことも原因となっていると思われた。